



村民表彰の考え方

豊創会 村上 孝 議員

**議員** 昨年は大震災の影響や福島原子力発電所の事故の影響を受けるなど、暗い世相が続く中、歴史と権威ある歌会の儀に本村の寺門龍一様が選ばれた。歌会の儀では、電車で福島へ向かう通勤の風景を歌に託され、27年目にしてこの栄誉を受け、まことに感無量であると言っておられた。このような名譽ある宮中功勞に対して、何らかの表彰を考えてもよいのではないかと思う。

**総務部長** 村では村に功績のあった方を対象にした村民表彰制度や、特に顕著な功績なり村民の誇りとして尊敬さ

れるような方を対象とした名誉村民制度がある。あるいは新たな表彰制度を設けることなども含めて総合的に勘案し、検討しているところである。

震災の教訓を生かしたまちづくり推進プロジェクトを設定し、復興支援の強化、災害に強いまちづくり、生活スタイルの転換を総合

**平成24年度の事業展開**  
**議員** 今年度の事業展開を伺う。

的に検討、推進していくとともに、食と農のふるさとづくりプロジェクト、子ども未来センターと国際的まちづくり推進プロジェクトにも取り組みたいと考えている。

**議員** 実施計画に基づく施策、事業など絵に描いた餅にならないよう、しっかりと取り組んでいただきたい。

**村長の給料減額**  
**議員** 村長、副村長および教育長の給料の減額。平成24年4月1日から平成25年3月31日までの間において、村長は給料月額から当該月額に100分の10

を乗じて得た額を減じた額とし、副村長は100分の5を乗じて得た額を減じた額とする。これはわれわれ村民に考えさせられるものがあると思う。

**自然との共生である生物多様性**

**議員** 自然との共生である生物多様性への取り組みについて伺う。

**経済環境部長** 自然環境は、人々に安らぎと潤いをもたらす。また、地球温暖化対策としても重要な役割を果たすものである。生物多様性を保全していくためには、この自然環境を保護・保全していかねければならない。現在、「村民の森」や「保存樹木等」の指定など緑を守る政策を行っているが、これと平行して、湧水の保全など昔から地

域にあった自然の財産を守っていくこと。また、荒廃した水田などを生物の生息空間として整備していくことを考えている。

**「生きる力」をはぐくむ体験活動**

**議員** 「生きる力」をはぐくむ体験活動の取り組みについて伺う。

**教育長** 落花生やいろいろな作物を育てる体験的活動を通して「生きる力」をはぐくむことは、生きるための知恵を身に付ける上で極めて重要な活動であると考えている。保護者も参加し、さらに教育的価値が高まるよう学校を指導していきたいと考えている。



**原子力センター構想**

**議員** 東海第二原発を廃炉にして、技術、研究炉として活用できないか。そして、J-IPARCで得られた加速器の技術を活用した放射線がん治療など、原子力センター構想の中で取り組めるか。

**理事** たただた業務として解体していくのではなく、やはり原発さんはパイオニア企業だから、廃炉技術を習得していくような、実証の場とか、人材教育の場として活用していくことも可能なのではないかと、原子力センター構想の中に含む概念だと思う。また、新しい治療法で中性子を使ったものとか考える中で、原子力センター構想に位置付けて、医療面でも取り組んでいきたい。